

大阪工業大学 應援團結成準備委員会 会報

抑 忍

発行所
大阪市旭区大宮5丁目16の1
TEL (06) 952-3131
大阪工業大学應援團結成準備委員会
発行責任者 山下 睦 雄
編集責任者 高橋 伸 夫

会報創刊にのぞんで

應援團結成準備委員会委員長

山下 睦 雄

今回我が應援團結成準備委員会
において機関紙を創刊するにあ
り、現在の準備委員会の実情を御
知らせすると共に、新入生諸君に
対してクラブ活動への参加を要望
致します。應援團結成準備委員会
は、民主的で金銭的な活動を行
致す為には規約の検討、作成、又
総務部、リサーチ部等各部の確立
準備を目的として、二年前に結成
されました。

以後、自己滅却の精神であるこ
ろの耐え難きを耐え、忍び難きを
押しこめて、「抑忍」の不屈
の精神を根柢として、厳しい規律
の下に連帯の精神を忘れず、先輩
に対しては礼節を尽くし、各々實
剛健をモットーとして紫の団旗の
下に有志が結束して活動を行な
てまいりました。我々の目指す應
援團は母体充実発展の為に、本校
の文化、体育活動並びに本学

應援團結成準備委員会 会報発刊にあたり

代表 塩崎 恭 介

時は初夏、清水豊かにして絶ま
ず流れる大淀川を背にし、木々深
緑に色どられる大宮の街の中央
我が学舎は新学期以来一月を経
過、新入生諸君も学園生活に慣れ上
級生諸君も本学生活を満喫して
いるのであります。此の度
應援團結成準備委員会が会報を発
刊するにあたり本会のOBといた
しまして本会発足の趣旨と経過の
御報告がたがた発刊の御祝いを申
しあげます。

昭和二十四年前、應援團が不幸に
も不祥事件を引き起こし解散の後
我が学園は應援團をもたぬまま、今
日に至っております。昭和二十八
年民主的な学事的な應援團を創る

名に於いて行なわれ、すべての学
生行事を支援し、母校の健全な学
生の為に精進する事を精神とし
ています。現在学園内のすべての学
生活動に於いて、学生内部からの
盛り上がりが出てくるように見
うけられます。学生活動の盛り上
がりを計るには結成準備委員会
としての活動には限度がありま
す。結成準備委員会では、二年間
の活動で準備すべき事は、後
はまた應援團を結成し学園の志気
を高揚させる事が我々に課せられ
た仕事であると考えます。應援團
は学生諸君と共に歩んでこそ発展
があり、学生の親愛なる協力があ
ってこそ活躍でき、母校の良き伝
統を守り、母校の誇りと名誉を後
輩に継承できるものであります。
我々結成準備委員会一同、一般
学生諸君及び関係者に愛され親し
まれ、且つ期待される應援團を結
成し、楽な方へ進退し、

成る為には精進するつもりであり
ます。先日来、應援團結成の運動
を進めていますが、重ねて学生諸
君の御指導御鞭撻を御願ひ致し
ます。さて、新入生諸君は大阪工
大に入学して早や二ヶ月を迎えられ
た訳ですが、現在でも入学時の
初心を持ち続けていますか。
私は諸君の先輩の一人として、学
習に際し、情熱的で意
活の本質を見極め、真理の探求を
目指すと共に人間形成にも励め
る事を大に望みます。前
者の真理探求、つまり人間形成は一人
でも可能と思われませんが、後者の
人間形成は一人では不可能です。
これは人と接し、人と語り合っ
てこそ出来、行動と経験の中から生
まれるものであります。人間は生
来弱くものであり、困難にぶつか
った時、楽な方へ逃避しがらあ
りません。また逃避しなくても傷つ
き易いものです。学生という恵ま
れた環境に置かれた我々は感情を
方向へ行き易いものです。諸君
は自己の認識から出発して自己の
確立に必要なのは人格の
形成と数多くの困難に打ち勝つ力
です。そしてそれを培う所、各
種サークルに於ける団体活動であ
ります。しかし、そこで大切な事
はどのようなサークルを選び、そ
の団体活動を通して四年間を如何
にして送るかという事です。正し
き指導者の下に目的意識を持ち、
確固たる信念を以て情熱に燃
え、規律ある活動を行なっているサ
ークルを選び、共に、そのサーク
ルに入らば二年間貫徹しなく
てはなりません。またクラブに入
部されていない諸君に、一刻も早く
クラブ活動に参加する事を奨励致
します。

最後に新入生諸君を初め全学生
諸君の今後の奮闘を期待して止み
ません。

断想

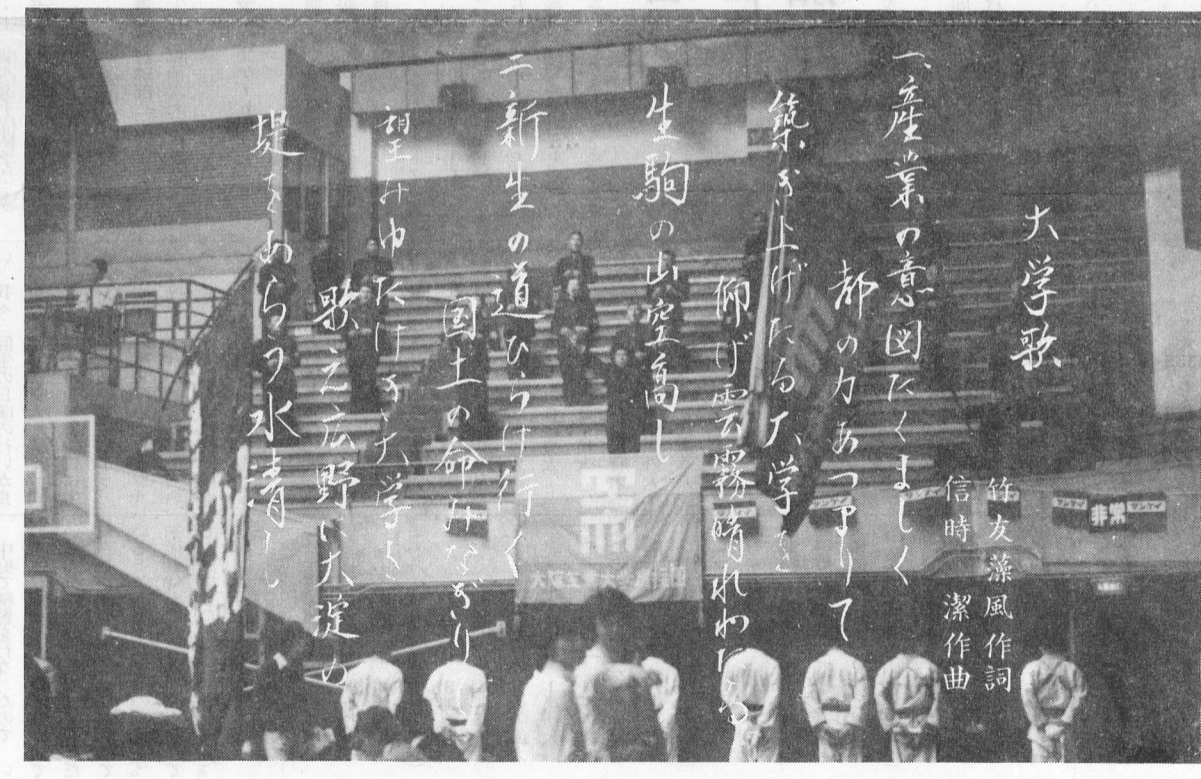
顧問 梶川 友 義

いざ我が選挙さらば行け
正義の勇士、自由の子
頑迷 固陋、暴虐の
コラーンの國破るべく
唐紅の大旗を

これは私が三十年近い昔、京都
の高等学校(三高)の生徒であつ
た時の、応援歌の一節である。今

先の応援歌の歌詞にもあるよう
に、三高は「自由」を標榜し、そ
の校風は「自治」を校是とする一
高と鋭く対立していた。一高は全
寮制度を敷き風紀点検委員なるも
のを置いて服装に至るまで厳しい
統制の下に置いていた。それが我
々(二高戦)を行って来た。戦争激
化により一時中断されたが、戦後
の権威と映っていたのである。こ
の一高をコラーンの下、マホメッ
ドに率いられたイスラムに擬し、
それと戦う我々を十字軍に見立て
たのが始めの歌詞である。この「自
治」に対する「自由」の対決とい
う意識が、当時すでにあった。應
援團はアナクロだという声を抑えて
全校応援團を結成せしめたのであ
る。

戦後日浅く食糧難の時代にあつ



求む、有志!!

本委員会では活発に行動
する為学生諸君が活動に
参加される事を期待して
います。

大阪工業大学
應援團結成準備委員会

この日八月十一日、烈日焼くが
如く、風無し。試合開始に先立つ
こと、時間、早くも入場する両軍
打ち振って歌台に入る。舟永の
秋の怨恨は、流れて遠く九百年
今京洛の野に燃ゆる、我等が高き
鮮血旗、向後の軍破るべく、今ぞ
たちなん自由の子……林立する
白(一高)と赤(三高)の旗は源
平の昔もかくやとばかり、やがて
試合開始、空に舞う白球、地を蹴
る選手、両軍の喊声と歌声は天に
こだまし、地を震わす。激闘数時
間、漸く西に日の傾く頃、遂に雪
辱受る。試合が終るや、グラウンド
にとび下りた我々は狂喜乱舞、手

全員が引き上げたあと、片付け
の終わった球場は戦の名残も留めず
静かであった。唯、西山に沈んで
ゆく太陽がその日一日に燃やした
青春の血の色を見せて真赤であつ
た。それを跡片付けの為最後まで
残った数人と無言で眺めながら、
勝利の喜びと努力の報われた満足
感、同時にこれで全てが終った様
なものを淋しさといつた感情が互
いの間に共通に流れているのを感じ
ていた。私は今でもその時の太陽
の色をまきまきと目の前に見ると
とが出来る。そして、もう一度
持ち得たことを、またそれを共
感し得た友が得られたことを、私
の若き日の大きな喜びとするもの
である。

今回應援團結成準備委員会の諸
君が広報紙を発行されるに当り、
青春の日の想出の一端を記して祝
いの言葉に代えたい。

応援団(準)と体育会

体育会本部長 松木久幸

此度、応援団結成準備委員会が設立されて以来、直々と運動組織を拡大、充実してきました。昭和32年には横山氏(初代)部長により運動部という柱を設け、体育会という確固たる運動系組織を築き上げ、現在では二九部、一クラブ、総計三〇の団体と成りました。

体育会発足当時は東京工業大学、名古屋工業大学、そして我が大学とよって三大定期戦というのを催していましたが、各大学の都合により第四回打ち切りされました。しかし、依然として陸上競技部だけがこの定期戦を続け親睦を深めております。三大定期戦が打ち切りとなって四年後(昭和39年)には、第九代部長(守屋氏)の手によって、報知新聞社を後援とし、大阪経済大学、桃山学院大学と共に淀都三大学定期戦を組み、昭和四十六年には、年間行事に「応援団結成準備委員会」として参加し、来年から淀都五大学となる予定で、この定期戦も序々に盛況の一途をたどっております。

淀都戦の形を簡単に申し上げます。毎年、主催校が代わり、約一週間前後の日程で行なわれ、各種目の戦績は点数制となっており、この淀都戦の目的はスポーツを通して共に戦うことにより親睦を深め、そして良き意味でのライバル作りの場、すなわち、各大学のエネルギー発散の場として、求を知ってもらうため我々体育会と共に演武を行なっています。

このように我々体育会が、定期戦を組み、応援団結成準備委員会に各部の応援へ向けて戴き、選手諸君の意気と力を盛り上げてもらえるという事は体育会として嬉しい限りです。また、淀都戦の閉会式に於いても、毎年、各大学の応援のエネルギー交換では、我が大学の選手達を奮い立たせる程のエネルギーをかけてもらい感謝しております。

発刊によせて

文化会本部長 大森武志

最近、何事にも無関心を学生が多いと思います。社会のこと、又「近ごろ」のことさえも知らなすぎます。工大においてどんなことがなされているかを知っておく必要があります。第三者的な冷たい視線を持って見るのではなく、行事に参加して、自分も工大であること自覚してほしい。

自由気ままな大学生活、油断していると自分自身を見失って、自分をあまやかす結果となります。青春時代の貴重な時間をもっと有意義に使いたいものです。身体を動かして、肌で何かを感じよう。やろうと思えばやれるだけの年代なのです。成功、失敗は別としてその意欲が大事なものではないでしょうか。そうすることによって、自分が何者であるかははっきりとつかみとることができるようではないでしょうか。

ややもすると、閉鎖的になりやすい我々です。自分の殻の中に閉じこもっては、外部からの刺激を見逃します。それは、何も発展はありません。工大において、我々の刺激となるものは、たくさんあります。そしてまた、いろいろな人間がいます。何かをやっている人間と接して、連帯意識を持ち、工大を盛り上げて行くことではありませんか。工大を盛り上げて行く時に、先頭に立つてもう一つの応援団結成準備委員会です。応援団結成準備委員会は、我々学生とかけはなれたもののように感じますが、応援団結成準備委員会は我々学生のためのものです。野球の時に応援するのが、応援(準)の役目ではありません。もっと広い分野に浸透しています。我々学生は、協力と共に利用すべきではないでしょうか。応援(準)と一致協力して、工大らしきという言葉を書き上げて行くことではないでしょうか。これからの応援団結成準備委員会の活躍と発展を祈っています。

文化会各部 行事日程

- 6・21 弁論大会 (毎日ホール)
- 6・29 ジャズコンサート (厚生年金中ホール)
- 尺八部 関西邦楽連盟 テーマコンサート (森の宮青少年会館)
- 7・6 月公演 クラシックギター部 (森の宮青少年会館)
- 7・7 部内独奏会 (森の宮青少年会館)
- 写真部 6・30・7・5 新人展 (中庭)
- 7・11・17 ヒルゼンギャラリー ユースホステルクラブ (夜間歩行 淀川堤防)

試合結果

体育会各部 試合日程

- ボクシング部(近畿学生リーグ)
 - 4・28 工大3 - 4 近大II部
 - 5・12 工大3 - 4 立命館
 - 5・19 工大4 - 3 関西学院
 - 5・25 工大5 - 2 同志社
- 硬式野球部(近畿リーグIII部春季戦)
 - 4・28 工大9 - 1 大阪薬大
 - 5・5 工大3 - 1 大阪薬大
 - 5・10 工大6 - 3 大阪薬大
 - 5・11 工大12 - 7 大阪薬大
 - 5・17 工大8 - 0 大阪外大
 - 5・18 工大5 - 3 大阪外大
- 合気道部
 - 7・6 全日本個人選手権
 - 11・下 全日本選手権
- 柔道部
 - 未定 全日本理工科優勝大会
 - 7・13 大阪府下団体優勝大会
 - 10・5 大阪府下別段選手権
- ボート部
 - 6・中 阪神六大学レガッタ
 - 8・上 関西選手権春季リーグ
- ボクシング部
 - 11 近畿学生トーナメント
 - 11 対芝浦工大定期戦
 - 10・11 阪神六大学秋季リーグ
- アイススケート部(定期戦・個人)
 - 4・4 工大8 - 1 大阪薬大
 - 4・5 工大21 - 1 大阪薬大
 - 4・7 工大13 - 2 大阪薬大
 - 4・16 工大2 - 2 大阪薬大
 - 4・22 工大5 - 2 大阪薬大
 - 4・23 工大0 - 3 大阪薬大
 - 4・25 工大6 - 0 大阪薬大
 - 4・28 工大2 - 3 大阪薬大
 - 4・30 工大5 - 4 大阪薬大
 - 5・1 工大4 - 5 大阪薬大
- 自動車部(全関西ダートクロス)
 - 一位 小島要助(II C3)
 - 二位 木下敏昭(II M4)
 - 五位 元志喜(II D3)
- バレーボール部(関西学生春季リーグ戦)
 - 工大41 - 57 愛知大
 - 工大2 - 0 大阪外大
 - 工大0 - 2 奈良教大
 - 工大0 - 2 和歌山大
 - 工大0 - 2 大谷大
 - 工大2 - 0 奈良大
 - 工大2 - 0 京院大
 - 工大2 - 0 京都府大
 - 工大2 - 0 関西外大
 - 工大2 - 0 京都薬大
- 軟式庭球部(大学対抗戦)
 - 工大1 - 4 天理大
 - 工大2 - 3 神院大
 - 工大1 - 4 京都工織
 - 工大5 - 0 大阪薬大
 - 工大4 - 1 電通大
 - 工大4 - 1 関西外大

委員日記より

某月某日 一回生 A
雨が降りそう而降らなかつた。天気は我々二回生を裏切った。二回生は幹部にはいり、OBには天候にさえも見離されてしまった。もはや頼れるものは何もなく、実には寂しい限りだ。今日の練習でもっとも珍らしかつたのは、久しぶりに山下先輩の発声を聞いた事だ。実に立派な発声だと思つた。さすがは團長と、日誌には書いておこう。

某月某日 一回生 B
発声練習が非常に長かつた。新しい学生服のカラーが高すぎるのか、首が短い為か、それはわからないが、発声の時あごの下がいたい。我々二回生の日頃の行いが良い為か、不思議に晴天が続く。同じ練習でも、こんなに暑い日になるのは、全くまいてしまふ。

某月某日 一回生 D
中庭で練習を行つたので、いつもよりあせつた。みんなが見ているのといないのでは、なんだか感じが違つた。やはり人が見てると気がひきまらぬのだ。

某月某日 一回生 C
この頃、猛の練習は股立ちとか、股股突きとか、そういう事ばかりするので、体がものすごく疲れて来ます。それに来週から強化練習だそうなんです。ワ、土曜日に新歓コンパがあるというのに、むちゃくちゃです。もう来週のことまで考え、休みたいです。一回生みんな、喫茶店へ行き、色々話をしました。今後の事を考えると、もう眼前が真っ暗になり、みんなアアと嘆息をつきました。ふと前を見ると、先輩がおられました。おこつてもういりました。なんだか悪い気がしました。先輩ゴッソツンでした。おこつてもういりました。先輩が変ります。人間とは妙な生物ですね。

幹部紹介

- 委員長 山下睦雄(II C4) 福岡・宗像高校
- 副委員長 矢野光義(II B4) 愛媛・松山東高校
- 副委員長 野中昭夫(II E4) 大阪・工大付属高
- 松吉秀司(II A4) 滋賀・八日市高校
- 会計部長・プラスバンド部長 溝口政敏(II D4) 兵庫・竜野高校
- 高橋伸夫(II C4) 宮崎・小林高校
- 旗手部長 稲垣孝親(II C4) 大阪・西野田工高

委員紹介

- 名前 所属 出身校
- 一回生
 - 上村孝三 A 甲陽高校
 - 小野浩一 M 大分東高校
 - 田中克彦 C 篠山産業高
 - 難波敏久 A 西宮東高校
 - 二俣稔邦 D 吳宮原高校
 - 松島洋行 B 三次高校
- 二回生
 - 石川誠二 D 三豊工業高
 - 植村安延 C 耐久高校
 - 早 俊之 D 福岡高校
 - 北村伸一 B 西宮東高校
 - 津田実 B 篠山鳳鳴高
 - 森本八郎 M 高島高校
- 一回生
 - 荻野芳宏 A 市立西宮高
 - 片山一明 C 井波高校
 - 河合一彦 C 大東高校
 - 小谷力令 M 鳴屋高校
 - 恒川仁 E 姫路工業高
 - 橋本健一 C 鳳高
 - 藤本豊実 M 脇町高校
 - 村上道一 B 大分鶴崎高
 - 山口良二 M 北陸高校
 - 山本繁男 M 竜野高校

編集局便り

ようやく、会報発行にこぎつけます。出ました。何分にもはじめての事で、多くの方から助言をいただき、頑張つて来たが、やはり経験不足はいくらでも仕事をこなして行く。明らかな頭脳と愛を絶やさない男。程表現出来なかつた事が悔まれる。なにとぞ今後とも委員会に御理解と御支援をお願いします。編集局員一同

